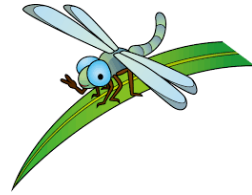


研究所だより

第405号
2019年 9月 9日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“とんぼのめがねは 水いろめがね
青いおそらを とんだから とんだから
とんぼのめがねは 赤いろめがね
夕焼け雲を とんだから とんだから”
『とんぼのめがね』 童謡(1949年)



～2学期スタート～

「高知県の今夏は、暑さ、日差しとも控えめ」と気象庁や高知地方気象台による発表がありました。7、8月は梅雨前線の影響や台風の接近で曇りや雨の日が多く、日照時間も少なめでした。全国的にみると今年も「長雨、猛暑、酷暑、記録的短時間大雨、台風」により各地に様々な被害をもたらしました。これからも台風の接近や様々な自然災害が予想されます。2日(月)には地震に備え県内一斉に「シェイクアウト(地震から身を守る行動訓練)」が行われました。各校におかれましては、「自助・共助・公助」「自分の身は自分が守る」を合い言葉に災害に備えての準備・訓練を徹底していきましょう。



2学期が始まり、児童生徒の元気な顔、声が学校に戻ってきたことでしょうか。子どもたちは、長期休業でなければできない貴重な体験をしてきたと思います。また、先生方も研修や研究をされてきたことと思います。

2学期は、運動会をはじめ諸行事の多い学期ですが、行事を通して地域の皆様と関わりを深めることのできる学期でもあります。益々多忙感は増大するでしょうが、蓄積されたエネルギーをフルに生かし、地域と連携しながら実りの多い秋・2学期であって欲しいと思います。

＝研究協力校の取組＝ ～実るほど頭を垂れる稲穂かな～

三崎小学校では、研究テーマに「『地域との連携・協働』を通して自立する児童の育成」を掲げ、活動計画の1つに「田植え(米作り体験・収穫・餅つき大会)などの体験活動を通して、山と川のつながり、人々の暮らしを考える」と位置付けし、全校で取り組んでいます。

3日(火)には、地域・保護者の皆様のご協力により4～6年生が見事に実ったお米(餅米)の収穫を手刈りで行いました。今回は、田植えと違い“鎌”という刃物を持つての活動です。地域の方の説明をきちんと聞き、雨の影響で横になった稲をしっかりと掴み、一生懸命刈り取って行きました。支援してくれたお父さんが「子どもでもやっぱり人数やね。一生懸命に取り組んでくれたから早く刈り取れました。」と笑顔で語ってくれました。次は餅つき大会です。



☆第69次土佐清水市教育研究集会・一日教研(ふり返り)☆

8月7日(水)に開催しました一日教研について報告します。午前中は、2012年ロンドンオリンピック銀メダリストの杉本美香さん(柔道家)による『Always smiling～夢をかなえるには～』と題しての講演をお聞きしました。柔道との関わりを軽妙な口調と笑顔で語っていただきました。とても分かりやすく、目標設定や自己決定・自己責任などたくさんのお話を教えていただいたように思います。午後の部会研修では、講師を招聘しての講話や教材研究、フィールドワークを取り入れるなど部会独自の研修計画を練り、有意義な教研活動になったことと思います。先生方から寄せられた感想には、杉本さんの話と素敵な笑顔にパワーをもらい、これからの学級経営や個人支援に向けての方向性などが多く記述されていました。



下記に講演の感想を紹介いたします。



○演題から内容がとても気に入り、ワクワクしながら聞かせていただきました。スマイル＝笑顔、私もとても大事にしていることです。笑顔があたえる安心感、親しみやすさ、楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しくなる。そう思って生活している私にはピッタリの講演でした。想いも重なるところがたくさんあり、共感するところばかり、うんうん!とうなずきながら聞きいってました。笑いのセンスも最高で、周りを笑顔にさせる素敵なお話に感謝です。決してあきらめない強い気持ち、目標設定、いろいろな人への感謝の気持ち、学ぶ姿勢、杉本さんからたくさんの学びがありました。私も人が大好きなので、これからも杉本さんと同じ気持ちで人に接していきたいと思いました。

○学校で生徒を指導する上で大事にしたいことをたくさん学べました。今日学んだことを、子どもたちにも伝えたいと思います。

○スポーツ界の講演会に初めて参加しました。杉本さんの試合前の準備や試合への考え方が素敵だと思いました。また、長期・中期・短期目標を決めて取り組むことも私の生活に参考になりました。笑顔の講演会で、とても元気をいただきました。人とのコミュニケーションを大切に、人を読み取ろうとすることと、経験値を下げないために、否定しないことや人として付き合うこと等とても参考になりました。

○目標設定、選択、人に興味を持つ、コミュニケーション、笑顔、たくさん心に残るキーワードをいただきました。

○杉本さんの目標設定の仕方、長期・中期・短期と分けて考えていたというのは私たち教員にも通じる場所があると思いました。オリンピック選手のお話を生で聞ける機会はそうないので練習の厳しさやオリンピックへの思い等を聞かせていただいて得るものがたくさんありました。キーワードとして「自己決定」「自己責任」です。



○すごいパワフルなお話に感動しました。60才ですがさらに夢に向かって笑顔で頑張れます。

○仲間の大切さ、自分で考え、行動する力を改めて考える時間となりました。子どもにも伝えていきたいですし、自分自身にとっても力をもらった話でした。

○テレビで応援していたオリンピック選手の貴重なお話が聞けてとても良かったです。自分で選択することの大切さがとても分かりました。その日その時をやりきって、後悔しない、人のせいにならない杉本さんの姿勢に感激しました。「自主性」という言葉を聞いて、今の学校教育に求められていることだなと思いました。

○笑顔いっぱいのお話、力をもらった。先生方みんなが普段から笑顔になれたらいいですね。そのためのヒントをたくさんいただきました。

～あすなろネットワークの取組～

8月23日(金)第3回あすなろネットワークを開催しました。今年も東大阪市にあるNPO法人発達障害サポートセンターピュア施設長の種村祐太さんを講師にお招きし、「発達障がい傾向のある子どもへの発達段階・場面に応じたサポート方法」と題し講演をしていただきました。発達障がいは、「目に見えない障がいです。周囲には様々な障がいの方がおられます。」と終始優しい口調で語られ、この見えない部分に注目し、アプローチする方法を「事例・演習(体験;言葉の解り方 絵に描いてみよう。)」 「体験;絵になりやすい言葉に直してみましよう。(絵にしにくい言葉は具体的に伝える)」などを取り入れながら支援のポイントを具体的に提示していただきました。



【感想】



○昨年度に続けての研修でした。氷山の下を見極める力と、その上での個別対応力を大人の側が伸ばしていかなければならないのだなあと改めて思いました。「困った子! どうしてできんの!」そうやって、きちんと向き合っただけでなかった過去の指導に対し、申し訳ないなあと思いました。

○発達障害についてのサポートの仕方を考えさせられた。その子どもをよく観察し、その子にあった手だてがうまくいくように考えなくてはいけないと思った。また、ほめることも心がけたい。劣等感を持たせないように、楽しくユーモアいっぱい、生き生きと生活していけることを心がけて対応していきたい。また、保護者も支えていけるように関係機関と連携していきたいと思う。

○感覚過敏のことなど独特の見え方、聞こえ方、感じ方があることを聞き、無理に我慢させないように和らげられるようにしたいと思いました。発達障害の子に苦手な食べ物を頑張らせるといふ支援じゃなく、本人が自分でのけるようにしていること、それでいいんだと思いました。



二授業の見方・教室の見方二

(教育ジャーナル2019年8月号) から

ペア活動、グループ活動を充実させるには

話し合いが充実する条件

1. 人間関係ができている
2. 話し合う必然性がある
3. 話し合いの手順を理解している
4. 話し合いのゴールが明確である
5. 話し合った成果を共有している

充実した話し合いのために

話し合いが充実したものになるための必要条件とはどのようなものでしょうか。主なものとして左の5つを挙げました。これらについて説明していきます。まず、各項目を具体的にイメージできるようにするために、「逆」つまり「話し合い活動がうまくいかない原因」を考えたのが右のイラストです。この

イラストと関連づけながら、説明していきます。

1. 人間関係ができている

ここでいう人間関係は、仲が良い悪いということとは少し異なります。仲が良いにこしたことはないのですが、親友同士が最もよく話し合えるというわけでもありません。大切なのは、話し合える関係になっているかということです。

イラストにあるように、自分の話をしっかり聞いてくれていないという不満があったり、意に沿わないけれど他の人に迎合したりというような関係では、充実した話し合いになるはずがありません。

グループの他のメンバーの話を的確に聞くことができ、自分の思っていることをきちんと伝えることができる。さらに、困ったことや分からないことなどについて相談できる。このような「安心して」話し合える関係が重要です。

2. 話し合う必然性がある

これは、前号の「思考力を育むために必要なこと」についての項でも触れましたが、学習活動に必然性を持たせることで、子供たちは積極的に課題に取り組もうという意欲が高まります。逆に、イラストのように、話し合うことに必然性が感じられず、「ただの時間の無駄ではないか」という気持ちでは、充実した話し合いになるはずがありません。話し合いの必然性を実感できるような教師の場面設定が欠かせません。

3. 話し合いの手順を理解している

人間関係ができ、話し合う必然性を子供たちが実感し意欲的に取り組む姿勢ができていたとしても、話し合いをどのように進めていったらいいのかわからず、教師が1から10まで指示しないと話し合いが進まないようでは、充実した話し合いにはならないでしょう。

日常的に話し合いの場を設け、進め方の手順を繰り返し指導し、子供たちだけで話し合いをどんどん進めていくことができるようにしておくことも大切です。

4. 話し合いのゴールが明確である

この話し合いは何のためにするのか、多様な考え方に触れ、自分の考えを広げるためなのか、逆に多くの意見から絞り込んでいくための話し合いなのかなど、話し合いのゴール(目的)を明確にし、そこに向けた話し合いをしていくことが大切です。

5. 話し合った成果を共有している

2の必然性とも関係しますが、それまでに経験したペアやグループでの話し合いによって、成果が得られたという実感を持てなかったとしたら、そうした活動を行うことに「意味はあるのか」「なぜそんなことをしなければならないのか」という疑問を持ってしまうかもしれません。

逆に、過去に成果が出た経験をメンバーが共有していれば、「そのときと同じように話し合えば、成果が出るに違いない」という共通認識のもと、話し合いに関わることができるでしょうし、3の話し合いの手順の理解や習得にもつながっていくものと期待されます。

話し合う力は話し合いを通して

話し合いが充実する条件が整わなければ話し合いができないと考えていては、いつまでたっても話し合いはできません。教師が実態を見て、ポイントを決め、話し合い活動の中で、スモールステップで指導していくことが何よりも大切なのです。

もう一つ、「他者との対話」を通して「自分との対話」、「対象との対話」も促すことを教師は意識しておく必要があります。

◇図書紹介!◇ ぜひご利用ください。

- ① 学校教育・実践ライブラリ Vol.4
「働き方で学校を変える やりがいをつくる職場づくり」(ぎょうせい)

